



拝啓 寒さ厳しい毎日ですが、先生方におかれましては、ますます  
ご活躍のことと存じます。

この度支援を卒業させて頂きました。

1年7か月間、ご指導 いただき本当にありがとうございました。

■■■■ は、昨年3月14日に復学してから病欠1日だけ、継続  
登校10か月が過ぎました。今朝もいつも通り7時25分ジャスト  
に「行ってきます」と元気に出ていきました。

思い出せば、■■■■ が学校を休み始めたのは、小1の7月でした。  
今から2年半前のことです。理由は「授業がいや」「友達にから  
かわれた」と言います。週1日ペースで休むようになったため、学校  
と相談し、無理にでも登校させることにしました。

「学校行きたくない、休み」と言う日でも、「学校は毎日行くべき」  
と休ませず、登校させました。泣いて抵抗しても車に押し込み、  
学校まで送り、先生に抱きかかえられ、逃げようと暴れる■■■■ を  
見ないように仕事に向かった日も何度もありました。

そのうち、教室に行けなくなり、保健室で過ごすようになりました。

ため「学校がいや」なのね、どうしたらいいのか迷い悩み、  
スクールカウンセラー、児童相談所、精神科医に相談したり、

I took another step  closer to nature.

インターネットで調べましたが、納得できる答はなかなか見つかりませんでした。そんな中、水野先生の本に出会いました。

「これだ」と思いました。これまでの育て方が過干渉であり、その結果、■■■が神経質、我慢力が低く学校に适应できないことを知りました。ショックでした。でしわが子のため、家庭教育を学び、親が変わる決心をしました。

ペアレンツキャンプの家庭教育支援を開始した時、■■■は2年になり、母子登校をし、保健室で過ごすという状態でした。電話カウンセリング、会話ノートで細かい指導を受け、親が変わる努力をする中、変化が見られました。少しずつ教室に行く時間が増え、9月から登校班で行きまようになつたのです。

1人で登校したのは8か月ぶりのことでした。しかし喜びもつかの間、1か月もすると五月雨登校になり、12月から完全不登校となつていきました。

この時点で、家庭内対応だけでは難しいとの判断で、問題解決支援コースに変更し、先生の訪問も入れた対応をしていくことになりました。

■■■は登校準備をしないため、外出せず、風呂に入らず、過激なようになり、夜中にトイレで泣く声が出たり、座布団カバー





が切られていたこともありました。

そんな■■■に訪問の先生方は、共に遊び元気かけ話を聞き、復学に向けての準備を手伝い勇気づけてくれました。

教育コーチでは、口の重い■■■から、学校を休んでいる理由を聞き出した上で、復学の意志も確認してくれました。

こうして3月14日の復学日を迎えました。

あの日の緊張感と感動は一生忘れられないと思います。

継続登校の初めの頃は、遅刻する日や、泣きながらやと出ていった日もありましたが、段々安定し、今では登校は当たり前前のことになっています。

3年生になり、2学期の終業式に皆勤賞を、3学期の始業式には学級委員の任命書をいただいたことができました。

■■■は照れのような誇らしげな笑顔で私に見せてくれました。学校がいやだと泣いた日々からの確かな成長を感じ胸があふきました。

わが子の不登校という悲しい経験をしたが、そのおかげで家庭教育を学ぶことができ、本当によかったと思います。

親が変わることは容易ではありませんでしたが、ペアレンタル



の先生方に支えていただき、ここまでやってこられました。  
いつも親身になり、誠実な対応をしてくださいました。  
大切なことをたくさんたくさん教えていただきました。  
不登校を克服しただけでなく、親とのいい関係を作ることが  
できました。深く感謝しております。ありがとうございました。  
これからは、この経験を忘れることなく、家庭教育を学び続け  
ていきたいと思っております。

敬具

追伸 遠くから先生方のご活躍を心から応援しています